

CASE 14

自家消費型太陽光発電システムの導入により将来的な固定費削減を達成し、営業利益増を目指す

(業種：金属製品製造業)

会社概要

- ・ 旋盤加工を主軸とし、建設機械部品やごみ処理施設部品などを、単品小ロットから大ロットまで受注している。
- ・ 職人技術を要する加工から最新装置による加工まで幅広く対応。

補助金を活用した取組内容

- ・ 自家消費型太陽光発電システムを導入し、電気代の削減を図る。
- ・ 市場の電気代高騰に左右されないの、長期的に安定した電気代削減を見込む。
- ・ 固定費削減で、価格で他社との競争力向上や、職場環境の改善を図る。

導入した設備等の概要

自家消費型太陽光発電システム



導入前・課題等

固定費増加が課題

- ・ 製造工場のため、電気の消費量が特に多い。
- ・ 昨今のエネルギーコストの上昇で電気代が高騰し、固定費増加によって営業利益が低下。
- ・ 電気代をいかに削減するかが、経営課題の一つ。

補助金の活用にあたっての参考ポイント

- ・ いかに電気代を削減するか考え、太陽光の設置を検討していたところ、この補助金の存在を知り、予定よりさらに早期に投資回収が見込めることから活用した。

将来の成長に向けた展望・意気込み

- ・ 今回自家消費型太陽光発電システムを導入したことにより、固定費削減につながった。
- ・ 抑えられた費用で夏場の工場内の高温環境を改善し、労働改善に取り組む。

導入後・改善・効果等

固定費増加を解決！

- ・ 電気を主に使用する日中に、太陽光発電の電気はほぼ全て自家消費することで、長期にわたっての大幅な電気代や二酸化炭素排出量の削減につながった。

効果・成果